

④進路委員会

1 経過報告

1月	14日 (水)	私学・専修入試(推薦・特色)
	15日 (木)	私学・専修合格発表(推薦・特色)～16日
	19日 (月)	公立連携型選抜出願開始～26日
	21日 (水)	私学・専修入試(一般)～23日
	25日 (日)	公立通信制(前期)入試 発表1/28
	26日 (月)	公立推薦・特色・全単選抜等出願～2/2 私学・専修入試(一般)発表～1/28 就職一斉選考 ○デソノ学園 発表2/3 ○トヨ学園～28日 発表2/4頃の予定
	28日 (水)	公立連携型選抜 発表1/30
	29日 (木)	公立定時制・通信制前期出願～2/5

愛知県名古屋市合同進路委員会⑥

県教育会館

2 連絡事項

(1) 私学専修学校関係のR8年度各種日程

○R8年度 私学合同説明会

令和8年9月8日(火)～10日(木) 名古屋地区(名古屋市教育センター)

9月15日(火)・16日(水) 西三河(岡崎市竜美丘会館)

9月18日(金) 東三河(ロワジュールホテル豊橋)

(三河地区全体予備日9月24日(木) ライフポートとよはし)

○R8年度 専修学校合同説明会

令和8年9月25日(金)29日(火) (名古屋市教育センター)

●私立学校展 <未定> ※R7→8月21日(金)22日(土) (吹上ホール)

●専修学校展 9月12日(土) ナディアパーク 19日(土) 安城市アンフォーレ

(2) R8年度 R9年度入学者選抜三河地区公立推薦特色選抜要項説明会

令和8年8月24日(月) 午前 東三河 午後 西三河東

8月25日(火) 午前 西三河北 午後 西三河南

●県立高校進学フェア <未定> 例年8月上旬

3 今後の予定

2月	5日 (木)	公立全日推薦等面接・検査
	6日 (金)	公立全日一般出願～14日
	9日 (月)	公立全日推薦等発表
	13日 (金)	公立定時制前期検査 発表2/18
	17日 (火)	公立志願変更
	25日 (水)	公立全日制高校学力検査(一般)
	26日 (木)	Aグループ面接検査
	27日 (金)	Bグループ面接検査
3月	3日 (火)	一般追検査
	5日 (木)	公立定時制二次出願～12日
	6日 (金)	中学校卒業式
	10日 (火)	公立高校入学者選抜 合格発表 二次募集出願～12日
	11日 (水)	公立通信制後期出願～18日
	17日 (火)	二次学力検査 発表18日
	23日 (月)	公立通信制後期検査 発表24日

研究主題

進路指導に関わる諸課題を 解決するための実態調査・研究

進路委員会

1 はじめに

令和5年度入試から公立高校において新たな入学者選抜制度が始まり、さらに令和6年度入試からはWeb出願システムが導入された。また、令和7年度からは、中高一貫校やフレキシブルハイスクール、夜間中学といった3大プロジェクトも進められている。そのような中、一人一人の生徒に寄り添った確かな進路指導を実現するために、進路委員会としては最新情報の即時提供に努めていく。さらに、進路指導の基礎資料として中学3年生の進路希望状況を把握し、現状及びその入試結果の分析を行っていく。また、入試制度を検証し、よりよい制度となるよう改善を求めるとともに、中学校の進路指導が抱える課題の解決に向けて、昨年度末に行ったアンケート調査を基に各関係機関との協議を進めていく。以下にその概要の一部を報告する。

2 調査の内容及び結果考察

県内すべての公立中学校に、「進路指導アンケート調査」及び「公立・私立・専修各種学校などへの進路状況及び就職状況調査」を実施し、令和7年度入試の実態と課題を把握している。私立高校での特待生の勧誘に対する意見は近年一番多く、中学校側は苦慮している。高校やクラブの関係者による発言が中学校と保護者とのトラブルにつながったり、中学校が知る前に、体験入学・学校見学時に推薦入学の話題が出たりしたケース等である。

また、調査書等、出願関係書類の作成については、時期や提出物の違いに関する意見が

多かった。これらは中学校が各高等学校で違う書類の作成について対応に気を遣っているからだと思われる。日程については、12月から1月に取り組むことが非常に多く、中学校も私立高校も余裕がないことを実感している。一方、Webによるシステムが増えてきたことや、手続きが大きく簡略化されたことにより減ってきた意見・項目もある。〈表1-1〉

〈表1-1〉私立高校集約結果(一部抜粋)(%)

項目	R5末	R6末	前年比
特待生の勧誘	16.6	15.9	-0.7
出願関係書類	4.2	9.2	+5.0
調査書	7.2	8.9	+1.7
進学相談(12月)	8.0	7.4	-0.6
出願・入試日程	3.4	5.8	+2.4
渉外担当者の学校訪問	5.3	5.7	+0.4
合格通知	6.4	4.5	-1.9

(R6年度末進路アンケートより)

公立高校に関係する要望では、Web出願システムに関する内容が多かった。「推薦情報や調査書情報の文字数が緩和され、入力がしやすくなった」「新規ユーザ登録の開始日が、12月中旬になったことから、余裕をもって準備ができた」等、初年度の意見が反映されてよくなったという意見も見られた。また、本年度で3年目となる全県試行については、「とても助かった。来年度もぜひ実施していただきたい」等の意見が多かった。

学校見学については、個人のWeb申し込みが今後さらに増えることを希望する意見が多かった。「受検生情報と出願情報の確認は、紙を出力して行ったが、クラス・番号順で出力できるとありがたい」「『最終日までに登録すればいい』と主張する保護者がいるので、

出願と承認の期間を分けてほしい」といった意見があった。これらの意見を基に、より使いやすいシステムになるよう強く改善を要望している。〈表1-2〉

〈表 1-2〉 公立高校集約結果（一部抜粋）（％）

項 目	R5末	R6末	前年比
学校見学等の申込方法	13.0	12.6	-0.4
受検生情報の確認・修正・承認	10.4	10.9	+0.5
ユーザー・出願情報の登録	8.2	10.1	+1.9
Web出願手続き	9.9	9.2	-0.7
申請・届け出情報の確認・承認	4.6	9.0	+4.4
学校見学等の日程	2.9	5.5	+2.6

（R6年度末進路アンケートより）

本調査では、広域通信制高校（サポート校を含む）への進学者数の調査も行っている。具体的に、どの学校にどれだけ進学しているか、全国110余の広域通信制高校ごとの進学者数を確認し、その傾向を追っている。その結果、多かった学校から432人、353人、そして206人と続いている。また、ここ3年間の広域通信制高校の進学者を比べてみても、2,460人（R4年度）2,573人（R5年度）そして本年度は2,797人と増加している。進学する学校も多岐にわたり、近年新しい広域通信制高校が増加し、選択肢は広がっている。

3 関係機関との協議

進路委員会の調査結果や県による調査結果の分析を基に、中学校が抱える課題と対策について県教育委員会や県公立高等学校長会、県私学協会、県専修学校各種学校連合会、県労働局等、各関係機関と対話する場を重ねた。

県教育委員会や県公立高等学校長会とは、公立高校の欠員の大幅増加にどう対応していくかや、ここ数年の入試制度の変更がより円滑に行われるように協議を重ねた。

なお高校の欠員数について、公立は令和7年度入試において令和6年度入試と比べると、

〈表 2〉 公立高校（全日制）欠員状況

年 度	R3	R4	R5	R6	R7
欠員数	2,669	2,627	2,272	1,984	2,365
前年増減	+1,167	-42	-355	-283	+381

381人増の2,365人である。〈表2〉一方、私立高校は本年度932人（充足率95.6％）の欠員があり、昨年度より欠員数が300人増加している。令和2年度の私立高校無償化拡大、令和4年度の特色入試導入により、令和3・4年度の充足率が99％と一時は高まった。しかし、ここ2年間は下降傾向にある。

欠員状況について様々な要因が考えられる中、県立高校も普通科の魅力化・特色化の検討、中高一貫校やフレキシブルハイスクールの導入、夜間中学の設置などに取り組んでおり、関係機関と協議を重ね、よりよい方策を模索していきたい。

また、県私学協会とは、私立高校の入試日程や手続きなどに関して要望を伝えてきた。ほとんどの高校がWeb出願を導入しており、中学校側の入試事務も効率化が図られてきた。体験入学の申込方法の簡便化に向けて理解を得られている。今後も、入試日程や出願方法などの情報確認を密にし、最新の情報を全中学校へ即時伝達する役割を担いたい。

4 おわりに

公立入試においてWeb出願システムも3年目を迎え、体験入学も個人がWebを使って申し込むことが当たり前になっている。今後も、入試制度の検証と改善を要望していくとともに、大きく変容していく公立高校をはじめとした公私に関わる最新の情報を得て、全体への周知を図る重責を感じている。

また、小中学校では、特別支援学級に所属する児童生徒が年々増加しており、今後も県立特別支援学校の新設や定員増などに関する課題が想定される。

このように、進路に関する課題は山積しているが、何より生徒の望ましい進路選択となるよう、関係機関と粘り強く協議・要望を重ね、最適解を導き出すべく、今後もよりよい進路指導に努めていきたい。

令和6・7年度 調査研究報告書について

教育課題特別委員会

1 調査研究主題

全ての子どもの可能性を引き出す

個別最適な学びを保障できる学校組織づくりのための調査研究

2 経過報告及び計画

第1回委員会（4月16日）	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題・計画確認 ・研究の方向性確認 ・研究組織の確認 ・アンケート調査内容の分析スタート
第2回委員会（5月23日）	<ul style="list-style-type: none"> ・分析、考察内容の協議 ・メールによるグループ協議
第3回委員会（7月2日）	<ul style="list-style-type: none"> ・分析、考察内容の修正 ・原稿形式の確認
各委員での分析活動 臨時委員会（7月～9月）	<ul style="list-style-type: none"> ・メールでの原稿修正案等の意見交換 ・原稿形式等の調整 ・表記の文字について確認
第4回委員会（10月21日）	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿の最終確認 ・印刷業者への依頼
第5回委員会（11月11日）	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷業者からの第1稿確認 ・教育関係機関への送付計画 ・印刷業者からの第2稿確認 ・印刷依頼、製本
第6回委員会（1月27日）	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子配付（各教育機関） ・県小中学校長会HPへ報告書のUP ・年度末反省 ・次年度の特別委員会委員会について

3 調査研究の概要

(1) 授業における「個別最適な学びを保障する」ための具体的な学習方法

- ア「ICT機器活用による学習」の取組について
- イ「興味関心に応じた課題学習」の取組について
- ウ「習熟度別に行う学習」の取組について
- エ「補充的・発展的な学習」の取組について
- オ「繰り返し学習」の取組について

(2) 「個別最適な学びを保障する」授業のための教員育成の取組

- ア 教員の授業力向上のための取組について
- イ「個別最適な学びを保障する」教員を育成するための取組について

(3) 学校組織づくりの手だてと実践方法

- ア「個別最適な学びを保障する」教員を育成するための学校組織について

(4) 「個別最適な学びを保障する」教員を育成する取組事例

※報告書には、アンケート結果のまとめと考察が記載されている。

【郡市代表校長への依頼】

- (1) 机上に、市町村教育委員会の教育長様宛の報告書(冊子)と添え状(別紙1)を入れた封筒を置かせていただきましたので、教育長様にお渡しください。
- (2)今年度より、委員会報告書の配布を取りやめ、「愛知県小中学校長会ホームページの各委員会からの報告書等」から各自ダウンロードしていただく形としました。別紙2の内容を全校長に共有していただき、ダウンロードの上、是非ご一読ください。

令和8年2月吉日

市町村教育委員会
教育長 様

<各市町校長会長へのお願い>
教育長宛報告書とともに封筒にこの添え状を入れました。

愛知県小中学校長会
会長 加藤 広也
同 教育課題特別委員会
委員長 小竹 摩記

愛知県小中学校長会 教育課題特別委員会 調査研究報告書の送付について

向春の候 貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は、県小中学校長会並びに県教育課題特別委員会に対しまして、格別なご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、教育課題特別委員会では、「全ての子どもの可能性を引き出す個別最適な学びを保障できる学校組織づくりのための調査研究」をテーマに掲げ、令和6・7年度の2年間、調査研究を行ってまいりました。そして、愛知県内全域より抽出した小中学校212校の調査結果を基に、学校の取組の現状と課題を分析するとともに、課題の解決に向けた対策の必要性を加え、報告書としてまとめました。また、先進的な取組を行っている学校の実践事例も掲載させていただきました。

本日、報告書をお届けさせていただきます。本報告書をご一読いただき、ご指導いただければ幸いに存じます。

令和8年2月3日

各小中学校長 様

愛知県小中学校長会
会長 加藤 広也
同 教育課題特別委員会
委員長 小竹 摩記

愛知県小中学校長会 教育課題特別委員会 調査研究報告書の公開について

向春の候 貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は、県小中学校長会並びに県教育課題特別委員会に対しまして、格別なご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、教育課題特別委員会では、「全ての子どもの可能性を引き出す個別最適な学びを保障できる学校組織づくりのための調査研究」をテーマに掲げ、令和6・7年度の2年間、調査研究を行ってまいりました。そして、愛知県内全域より抽出した小中学校212校の調査結果を基に、学校の取組の現状と課題を分析するとともに、課題の解決に向けた対策の必要性を加え、報告書としてまとめました。また、先進的な取組を行っている学校の実践事例も掲載させていただきました。

報告書につきましては、愛知県小中学校長会のホームページにて掲載しております。本報告書をご活用していただければ幸いです。

<http://aikochu.ec-net.jp> (愛知県小中学校校長会ホームページ)

→ 右下の「各委員会の報告書等」をクリックする。

ユーザー名「syuroku」 パスワード「2025」